

○鎌倉市エネルギー実施計画策定に係るワークショップ開催結果

鎌倉市エネルギー実施計画の策定に当たり、市民、事業者などのみなさんから、省エネルギー（節電）や再生可能エネルギーの導入など、すでに取り組んでいることや、これから取り組もうとしていることを聞かせていただくためのワークショップを開催しました。

結果の概要は、以下のとおりです。

開催日時：2014年10月22日 水曜日 18時30分から21時まで

開催場所：鎌倉市役所第3分庁舎講堂

対 象：市内在住、在勤の方

出席者数：25名

表 省エネルギーや再生可能エネルギーの導入などについて現在取り組んでいること

注) ワークショップ時に記載されたご意見に一部加筆して掲載しています。

分類	現在取り組んでいること
LED	照明器具のLED化。
	ストックしている電球が切れた順に、LEDに取り替えている。
	一部の照明をLED化。
	LEDに順次換えている。
待機電力	待機電力の削減(スイッチ付きテーブルタップの利用)。
	使用していない電化製品のコンセントを抜いている。
家電	省エネ家電に買い替えた(冷蔵庫、エアコン)。
	家電をすべて省エネ型にした(テレビ、冷蔵庫など)。
	最新の冷蔵庫に買い替えた(エコモードが働くので、大幅節電可能)。
	古い冷蔵庫、エアコンを計画的に更新している。
給湯	夏は風呂を沸かさずにシャワーを活用。
	一人住まいなので、風呂は沸かさず、鎌倉五湯に通って省エネしている。
	台所では、洗い物のとき給湯温度を下げている(35℃)。
こまめな節電	電気をこまめに消している(テレビをつけっぱなしにしない)。
	コマメに消灯している。
	冷蔵庫の開閉は最小限にしている。
	できるだけ、こまめに照明を落としている。
	外灯は人感センサーで、常に点灯はしていない。
	なるべく公共交通で移動している。駅までは歩く、または自転車を使用。

分類	現在取り組んでいること
冷暖房	緑のカーテン(ゴーヤ)。
	夏場の対策として、グリーンカーテンを作り、エアコンは不使用。夜間も団扇で過ごしている。
	エアコンを使わない(うちわを使う)。
	エアコンを使用せずに扇風機を活用。
	そもそも冷暖房はほとんど使わない。
	冬場の対策として、カーテンを二重にしている。
	ダウンのテントブーツをはいて暖かくしている。
	エアコンをほとんど使わず、電気使用料は東日本大震災以前の半分になっている。
	冷暖房をなるべく使わないように、使っても設定温度をゆるくするように心がけている(あくまでムリはしないようにすると続けられる)。
	5LDKに一人住まいしているが、冷房は温度を下げすぎないように、暖房は温度を上げすぎないようにして、ガマンの省エネに協力している。
創エネ・省エネ設備	太陽光発電を設置している。
	自作のミニ太陽光発電を設置(50W)。
	太陽光パネルを設置している(50W×2枚で門灯、庭園灯(LED)を賅っている)
	お湯はソーラーで沸かしている。
	電化上手の契約をしている(エコキュート導入)。
	エコキュートを設置している(時間を考えて電気を使用)。
住宅設備	窓の開口部に、冬は断熱遮熱フィルムを貼っている。
	リフォームした。
	遮熱性の高い壁面塗料で壁の塗り替えをした。
	家を建てた時に、ペレットストーブ(木材をペレット状に固めたものを燃料とするストーブ)、アンペアダウン、LED電球、優秀な扇風機を活用。
	ゼロ・エネルギー・ミッションハウスを目標としている。
アンペアダウン	アンペアダウンを行った。
	電気容量の契約を30Aから20Aに下げた。
水	雨水を活用している。
	節水している。
	台所の洗い水を流しっぱなしにしないようにしている。
	台所のすすぎ水を夏の庭木の水やりに使用。
ごみ	ごみ処理機を使わず、庭に埋めて処理。
	生ごみは自己責任で処理している。
	生ごみ自家処理を使用(非電動処理機キエーロ)。
	町内会のイベントで、マイカップ、マイおはし、マイお皿を徹底している。
	ペットボトルを製造する時に大きなエネルギーを使っているという話を聞いたが、中身が見えるペットボトルはアルミ等の水筒より使いやすいので、再利用を心がけるようにしている。
その他	省エネナビでエネルギーの「見える化」を行っている。
	炊事のエネルギーを電力からガスに変えた。
	グリーン電力証書(再生可能エネルギーによって得られた電力の環境付加価値を、取引可能な証書にしたもの)を購入してみたが、継続はしなかった。
	明るくなったら起床し、日中は外でなるべく動いて、夜は疲れてコテツと寝ている。
	アイドリングストップ運動を行っている。

分類	現在取り組んでいること
市民団体等の取組	ESD(持続可能な開発のための教育)をすすめる事業で、地域の再エネポテンシャルを知る授業づくりにかかわった。
	地域を再エネ事業で元気にしようと、レクチャーとワークショップ方式で再エネ事業づくりをめざす事業の運営に関わっている。
	エネルギー関連のワークショップや勉強会を開催する場所として、現在再生可能エネルギーを活用した「エネルギーカフェ」をセルフビルド・ワークショップ形式で建設構想中。
	家庭での省エネを普及促進する為に、鎌倉市との協働事業を推進中。
	まちを木造でつくること、公共の建物(市庁舎や商業建築)などを木造でつくることの提案をしている。各地で展覧会やセミナーを開催し、啓蒙活動を行っている。実際の建物を、木造にて設計している。
	フィフティ・フィフティ(公立学校における省エネと光熱水費節減分還元プログラム)の導入を自治体に提案、コンサルティング等をしてきた。
	自治体の再エネ政策の調査、ドイツの再エネ政策の調査、ツアー開催。
事業者等の取組	なるべく近いところで仕事をいただき、移動は自転車。職住近接のしくみ作りが必要。
	夏の平日(7/25)を休日とし、電力需要削減に協力。振替の出勤日は多くの方が有給休暇をとっている。
	冷水器をやめて、浄水器と電気ポットにしている。
	遮熱フィルムを貼っている(南西向きの窓)。
	非常階段の電気をセンサー式にして、人が通る時のみ点灯させるようにした。
	毎月の電気使用量を事業別に社内アナウンスしている(見える化)。
	太陽光パネルを借りて、太陽光パネルのみで営業する日を作った(お店)。日頃の消費加減や必要度合いがわかってためになった。
	社内にミニ風力発電機を設置して発電、蓄電している。
	社有車のハイブリット化を進めている。電気自動車の導入も視野にいれている。
	大学校内に沢山果樹(びわ、もも、かりん、いちじく、グレープフルーツ、梅、夏みかんなど)が植わっているので、シェアしています。
	トイレ消音機を設置し、水使用量の削減に努めている。
	ペットボトルキャップを回収し、ごみの発生を抑えて資源化している。
	毎週水曜日・金曜日・給与支給日に定時退社(17:30)を実施(7/1~9/30)。
	クールビズ期間の拡大(5/1~10/31)。
	自動改札機、自動券売機について、昼間時間帯(13:00~15:00)の稼働を停止(大船駅・各1台)。
	エアコンのフィルターを、原則第2・第4木曜日に一斉清掃している。
	工事発注時、廃棄物が出来るだけ少なくなるように(再生処理)仕様をオーダーすることを考慮している。
	6月を環境月間とし、社員が社長方針を理解し、それに沿い運動取組を推進している。
	3~5年に一度親会社と環境懇談会を開催し、順法を確認している。
	事務所、会議室の蛍光灯を間引いている。
	12:00~13:00までの休憩時間中には、蛍光灯、パソコンの電源を落とし、トイレも日中は電源をオフの状態にしておく。
	車庫留置車両の電車内において、必要な電源以外は全てオフ、日中の走行時も節電期間中はオフにしている。
	事務所会議室のエアコン温度は統一し、夏は28℃としている。風通しを良くし、外からの風を利用し、エアコンを極力使わないようにしている。
節電や省エネ関係の行政や上部団体の作成したポスターやビラを駅や社内に掲示し、お客様や社員の意識を向上させるような啓蒙活動を行っている。	
勤務時間を陽の出ているうちに改定した(朝型の勤務にするため、残業代の割増時間を変更)。残業部屋を検討中。	

表 省エネルギーや再生可能エネルギーの導入などについて今後取り組みたいこと

注) ワークショップ時に記載されたご意見に一部加筆して掲載しています。

分類	今後取り組みたいこと	
	内容	どうすれば実現できるか
個人の取組	電球を全てLEDに変更したい。	
	全8室を、全てLEDに変更したい。	
	太陽光パネルをつけたいが立地が良くないので、家で使う電力を全て賄うのではないが、ペラダ発電などにチャレンジしたい。	
	太陽光発電装置を導入したい(必ず蓄電池を設置)。	資金の調達。大して費用がかかからなくても、効率的な省エネ&創エネができるものから実現したい。補助金、助成制度の充実を望む。
	2~3万円で買える小規模のソーラーパネルを買って、PCやスマホ充電などピンポイント自家発電充電を行いたい。	購入できるルートを探す、配線など家でできるか確認、情報、知識を得る。
	太陽光発電の設置…築年数の古い家屋なので屋根の点検等を十分に行って、是非載せたい。	家族で話し合い、資金の調達等。
	太陽光パネルの導入を考えたい。	
	太陽光発電パネルを自宅屋根に取り付けたい。	
	太陽熱利用(まずはソーラークッカー。オープン型が使いやすそう)。	お金と時間が必要。ソーラークッカーは、それを楽しみながら使う時間の余裕が必要。
	太陽熱利用(お金ができたら太陽熱温水器)。	お金と時間が必要。
	省エネ住宅へのリフォーム。	
	電気器具の買い替え。	家族で話し合い、資金の調達等。
	雨水をためる装置を設置したい。	家族で話し合い、資金の調達等。
	来年こそグリーンカーテンをやる。	どこからネットをたらせばいいのか、日当たりの悪い庭で育つか、と悩んで実行を見送ってきたので、アドバイスをくれる人がいたらいい。
	昔の人の知恵を学んで生活に取り入れたい(ハード面だけではなく省エネ、創エネを実践したい。打ち水、食べ物の知恵など)。	地域の昔の暮らし方を知る。そのために、年配の方に話をうかがう、昔の資料を探す、など。
	早く寝たい。	寝床スマホをやめる、1回すぐ早く起きる、休日も早く起きる。
	家庭菜園を始めたい。	耕す。知識を得る。計画する。
	電力会社の契約アンペアを下げたい。	現在使っている家電の使用電力、利用状況を把握する。家族を説得する。
	ペレットストーブ(木材をペレット状に固めたものを燃料とするストーブ)を使いたい。	お金を貯める。
	薪ストーブを導入したい(化石燃料の使用を減らす)。	購入して設置するだけ。
ロケットストーブ(薪を使う簡易なストーブ)を使う。	組み立てワークショップに参加して作る予定(使用する場所があるか確認)。	
学校	小学校、中学校の児童・生徒たちに家庭や地域の省エネを考えて、実践してもらいたい。	学校関係者と市の当局、市内有識者で実施策を検討する場を設ける。予算もつける。
	小学校等の給食から出る廃油の活用を行いたい。	
	鎌倉市内の学校でフィフティフィティ(公立学校における省エネと光熱水費節減分還元プログラム)を実施したい。	マニュアルがあります。原資はかからないので、やると決定すればできます。
キャンペーン	省エネ(自主停電)デーの設置をしたい。(計画停電、時間差で、などクリエイティブで無理のない方法で。東日本大震災の教訓や、あかり、電気のない暮らしを思い出したい。防災、省エネ、創エネに意識を持ちたい。)	公共施設、賛同団体(店舗、任意団体など)、寺、神社、教会など、有志イニシアティブがよいかもしれない。市民と行政がアイデアを交わし、プロジェクトが生まれ、うごかされる仕組みを(市は場づくりや広報でバックアップ)。
	エネルギー関連のワークショップや体験学習を提供する事業者を設立し、市内で定期的に展開するキャラバン方式で市内を巡回しても面白いと思う。	行政と民間の連携により設立。
	市でキャンドルナイト(病院等必要な場所は除外)を実施してはどうか。その間に、外で花火大会等のお祭りを開催する。	

分類	今後取り組みたいこと	
	内容	どうすれば実現できるか
車	車の市内乗り入れを減らしたい。	電車で来たら「いい事」「いい気分」があるようにする(JR鎌倉駅と一緒に何か出来ないか)。
	軽自動車に変更したい。	
	カーフリーデーの実施(1年のある1日、市内の一定の区域において車の利用を停止。フリーになった道路でエネルギーや温暖化、その他環境に関するイベントを実施する。自転車、ペロタクシー、人力車のイベントなど。)	関心のある人々で他地域の事例、学習会を実施。実行委員会の立上げ、関係行政機関との調整。イベントの企画、実施区域が肝心。
	マイカー規制の日、時間帯を試行していただきたい(長所と問題点がわかると思うので)。	広報。
バイオマス	バイオマスの活用(鎌倉の里山が荒れているので、手入れで出た木々等を利用して、ゴミと一緒に燃やし、バイオマス発電できたら。)	山の持ち主との交渉(市の力が必要)、里山の手入れを行うボランティアの確保、バイオマス装置の設置(土地さがし、資金)。
	生ごみのバイオ化(現在鎌倉市では燃やすごみの減量を迫られている。その燃やすごみの約1/2は生ごみ。それをバイオ化してエネルギーを肥料にすれば、燃やすごみの減量目標もクリアし、未来へつながる環境保全となる。燃やしてエネルギー化は効率が悪いので不可。)	現在鎌倉市のごみ分別は県内1位、市民のごみに対する意識は高い。更なる生ごみの分別は市民の力を借りなければならないが、焼却炉があと1年で一基使えなくなるという状況は、市民に分別への努力を促すチャンスとなる。ピンチはチャンスである。
	し尿によるバイオガスを利用して発電し、バスや公共交通に活用したい。	ごみ発電を安易にすると「ゴミを出してもいいでしょ」と資源消費の速度があがってしまうかもしれない。ペットボトルやプラスチックはよく燃える、となってしまうので、し尿排泄物によるバイオガスを活用する。
事業者	コインパーキングの緑化(アスファルトが増えてヒートアイランド化してきているのを実感している)。	パーキング業者へ、ある一定の緑化義務を!
	飲食店への規制(ゴミの少量化、冷暖房の抑制)。	鎌倉で営業するにあたっての勉強会(講習会)など
	空調を控えめにしたい(スーパー、コンビニ、電車、バス)。	利用者として事業者にしつこく言う。バスの運転手は夏は半袖、冬は長袖を着用する。お店は「売れる」ことより省エネを優先させた方がブランド力が上がるような雰囲気をつくる(にはどうすればいいのでしょうか…)
	残業をしない(事業所の省エネになる。家庭で暮らしを楽しむ余裕、省エネができる)。	定時になったら消灯する。
	井戸水又は雨水の活用をしたい(車両の洗車、災害時の雑水として利用)。	費用対効果、活用機会の予測(リスクの見積)。
	ごみの分別の周知・徹底を行いたい。	セミナー開催、パンフレットの配布。
	電気自動車を購入したい。	補助金の拡大。
	人感センサー設置機器を拡大したい。	予算の手当て。
	井戸水や雨水を再利用できるようにしたい。	今ある会社の設備に、再利用設備の設置が可能なか等や、コストについて議論をする。どのように有効活用していくのかも考える必要がある。
全体のごみ排出量を削減したい。	マイ箸の使用を呼びかけたり、なるべくごみの出ない容器を使ったものを使用する。駅や社内にごみをへらすよう呼びかけるようなポスター等を掲示し、少しでも意識をしてもらう。	
創エネ(地産地消)	鎌倉発電所の建設を希望している(映画「シェーナウの想い」のように。東京電力から買うよりも安価になるのではないか)。	クラウドファンディング(ある目的、志などのため不特定多数の人から資金を集めること)で建設費の確保を。債権を発行し鎌倉市民で。寄附を集める。
	創エネ(省エネ)的視点から、鎌倉のまちづくり、ブランディングをしたい(市民参加型で、あるいはアイデア、デザインコンペ型などで展開)。	機会、場づくりに市が支援する。風とおしよく、人が出会い、アイデアが形になり、それを具体化するしくみがあることが必要(ワークショップ、情報の蓄積・可視化、制度、場が必要。)
	再生可能エネルギーを利用したい(この夏、都留市に遊んだ。水の豊かな市で、小さな水車があり発電もしている由、鎌倉も高低差のある流れがある。小水力発電は可能ではないか。公共施設の屋根で太陽光発電、潮力を受ける処はないのだろうか)。	水力発電は大量の流水があるときは障害となって水害の基となる可能性がある。小型の機械なら状況に応じて上に上げられるような仕掛けを作ればよい。

分類	今後取り組みたいこと	
	内容	どうすれば実現できるか
創エネ (地産地消)	市民共同発電所づくり(市民、市内事業者から出資を募り、市内のシンボリックな場所で太陽光発電所を設置。鎌倉らしく、お寺の屋根がベスト。)	関心ある市民・事業者による事例研究、講師を呼んでの学習会。協議会の設置、有力事業者・金融機関の巻き込み。FITの買取価格が下がるので、出資者に配当を十分にできるか、見極めが必要。
	鎌倉市ご当地発電(屋根貸し/出資)。	個人ではたかがしれているので、鎌倉市程度の規模感のある取り組みが必要。
	自治会・町内会単位での創エネ(ごみの処理、風力発電、数軒でソーラー発電を行う市民電力)。	先ず住民間の合意形成、経済対効果を明確にしていく。
地域コミュニティ	町のコミュニティを作るため、町内会館やコミュニティハウスを作り町人のきずなを作りたい(三世代交流が出来るように)。	
	市民スペースをつくりたい(あたたかい、涼める、アイデアをシェアできる、コメントしたり、アイデアを育てたりできる場所)。定期的にワークショップを開催し、毎年プロジェクトを生み出す。	機会、場づくりに市が支援する。風とおしよく、人が出会い、アイデアが形になり、それを具体化するしぐみがあることが必要(ワークショップ、情報の蓄積・可視化、制度、場が必要。)
	皆で集まってすごせる場所を作りたい。一人暮らしのお年寄から若年層まで、無償で快適にすごせる集会所のようなもの。個々の家庭のエネルギーを使わずにすごせる。また団体でも集まれるような場所をつくる。観光客も一時集合。	土地と建物、行政・民間による開発もしくは寺院の協力。
	1人暮らしをやめて、集まって住むことで全体のエネルギーを減らすことができる。個人のムダをなくす(独身者専用のシェアハウス、お年寄りと若者の共同生活、子育て世代の同居など。)	空家の確保(安い家賃)、住人のニーズに応じて共同生活する人をくみあわせる、マッチングする機能、コーディネーター。
	5人以上で暮らす、共同で暮らす(シェアハウスなどを環境配慮型建物にする人たちに補助、インセンティブ)。	モデル地域をつくる。子育て家庭、学童、一人暮らし高齢者(食事一緒に食べられる)。
	「シェア」を目的とした持ち寄りパーティーをはやらせたい(定期的に開催)。	場所、時間を決めて開催。
	大家族で一つの家に暮らす生活スタイルが最も省エネだと思う。	現在の世の中の状況ではむずかしい。血縁に限らなくてもよいのかも。
	空家をシェアハウス化し、大勢で住む、核家族化を防ぐ。	
	コミュニティ銭湯をつくる。	
	銭湯で、営業時間が長く安価なものをつくる。送迎バスも用意する(家庭風呂から銭湯へ)。	銭湯組合、共同で行う、行政で補助する。
まちづくり	鎌倉の遊休地に、農地、雑木林を作る。	行政が、まちづくりのビジョンを提示。
	緑の保全(ヒートアイランド防止など)。	都市開発の見直し、手入れのボランティア。
	まちを木造でつくる。住宅以外の公共性のある建物を、実際に木造でつくる。	施主となる個人の方や企業などの団体に、木造の可能性と魅力を分かってもらえるようなプレゼンテーションを行う。
	図書館、各集会所を環境配慮型に大改装。そこで集まり過ごす場所とする(個々で使うエネルギーを減らす)。	
	将来のまちの課題を見越した省エネ・創エネプロジェクトの実施(高齢、孤独、移動、交流といったものに、エネルギーの視点を持ち、組み合わせる)。	コミュニケーション、交流の場を、ネットだけでなく、ネットを使わない世代(特に高齢者)も含めて、エネルギーをキーワードに出会い、交流できる場を。
	比較的規模の大きい宅地開発事業地にて、モデル事業として、エネルギーの自給及びシェアができる集落作りを、コーポラティブ方式で行う(例:深沢の再開発事業区域内等)。	再開発事業者の発掘。
	深沢地域国鉄跡地周辺総合整備事業用地に焼却炉を建設し、その熱を有効利用。	
深沢地域JR清算事業跡地再開発地域で、創エネモデルとなる事業を展開。		

分類	今後取り組みたいこと	
	内容	どうすれば実現できるか
その他	「節電ネガワット」の導入(国・自治体・電力会社等の、特にピーク時の節電分を買取る。)	行政が制度化して、事業者及び家庭での節電協力金を支払い節電活動を支援する。
	環境配慮型の事業者所有の建物は、税金を減らす。	
	市民に省エネ・創エネに関する情報格差があることを解消する(地域自治会、市のウェブサイトを通して、情報を提供してくれる個人や団体あるいは情報そのものを知らせる。)	自治会連合体との連携。
	各家庭、希望者にペレットストーブ、まきストーブを補助支給し、ペレット、まきによる暖をとる(ペレット購入は、林業で間伐している地域から行う)。	
	エネルギーをもっと身近に感じられるようになりたい(スイッチを押せば点くだけではなく、自転車発電や小さな太陽光パネルなどで、エネルギーは自分でも使える(つくれる)しくみがあることを実感したい。)	個人でも所有できる太陽光パネル、公共の場所やイベントで使える自転車発電などを体験する。
	「エコアクション21のCO ₂ 削減プログラム」を導入・普及したい。	環境省の新規事業「CO ₂ 削減プログラム」を市内の事業者を導入を促進し、普及させる。既存のエコアクション21制度を発展させ、CO ₂ 削減に力点を置いた省エネ・創エネの促進を普及させる。
	鎌倉駅前などに、複数名対面型自転車発電装置を置く(携帯電話、スマートフォン等充電用。例:オランダの空港)。	エネルギー政策の一環として、行政が設置するのがよいと思う。
ご意見等	冬季イルミネーションをまちに合った灯に(鎌倉駅前のイルミネーションは鎌倉のまちに合わない。寒々しい。省エネかつ暖かみがあり古都らしいまちのあかりを、市民と事業者が共同してつくる。例:竹キャンドルイベント)。	関心のある人で他地域の事例調査、学習会。鎌倉らしい、まちのあかりデザインづくり(専門家にも関わってもら)。資金はクラウドファンディングもあり。
	照明・光のデザインを考える(美しい鎌倉のあかりをデザインしよう)。定期的にワークショップを開催、毎年プロジェクトを生み出す。	機会、場づくりに市が支援する。風とおしよく、人が出会い、アイデアが形になり、それを具体化するしくみがあることが必要(ワークショップ、情報の蓄積・可視化、制度、場が必要。)
	アンペアダウンを東電にお願いしたら、高額な費用が掛かります、電気事業者にお願いして下さいと言われた。もっと簡単に出来ないものか。	
	ごみを焼却して発電するか、または、排熱を利用して温泉風呂を設ける(廃棄物が多ければ発電をまた、少なければ排熱利用を)。	
	住宅の大型化、空き家のシェアハウス化、三世帯住宅の建設を推進し、家族のきずな、町のコミュニケーションを図る。大勢で住めば、大きな省エネになる。	
	鎌倉の防犯灯LEDの色を電球色にしたい。	